

第2回 第2期三朝町まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

日時 令和2年3月10日

13:30～15:00

会場 三朝町役場第4会議室

1 開会

青木地域振興監	それでは、時間になりましたので、ただいまから第2回まち・ひと・しごと創生推進会議をはじめさせていただきます。足下の悪い中お集まりいただきましてありがとうございます。 それでは、開会にあたりまして松浦町長から御挨拶をいただきたいと思ひます。
松浦町長	皆さんこんにちは。今日は第2回の三朝町のまち・ひと・しごと創生推進会議を開会させていただきました。今はどの会に出席しても新型コロナウイルスの話題になりますのでここでは話しませんが、マイナスになったものをスタート地点まで返すのが大変な労力だと思ひています。その中で地方創生のスピードを緩めるわけにはいきませんので、令和2年度のスタートに向けて、今日またそれぞれ御意見をお聞きすることになりますけれども、何卒よろしくお願ひいたします。
青木地域振興監	ありがとうございました。それでは始めてまいります。 始めるにあたり、お手元の資料を確認したいと思ひます。(資料1、資料2、資料3、参考資料を確認)

2 報告事項

資料1、資料2に沿って事務局(企画課)から説明

※質問等なし

3 意見交換

松浦町長	それでは、意見交換に入らせていただきます。まずは、総合戦略全般のことについて、前もって配布をしておりました資料3に沿ひまして、それぞれに気の付かれたことについて御意見を頂戴したいと思ひます。 今日の会議は順番に行きたいと思ひますので、大坂委員から資料3についてですね、気付かれた点、提案されたいことがありましたら発言いただきたいと思ひます。
大坂委員	しっかりと読ませてもらったわけではございませんが、主だったところを見る限りきちっとそれぞれポイントを押さえている、まとめら

れているなと思いました。それが率直な感想であります。前に申し上げましたように、やはりメインは魅力をいかに創るかという、より具体的な方策というものがあると思うわけであります。先回の場合でもですね、三朝の魅力はなんだろうと、こういうことを言われたときに、三朝温泉のラドンであり、それから三徳山の国宝の投入堂であり、農産物、ここでは最近では星空米ができたり、あるいはキヌムスメが非常に優秀な成績をおさめたりとか、神倉大豆があるとか、あるいは今私どもの三徳地域協議会ではですね、ニンニクを作っている方がでてきた。新しく産業を興したいという熱意をもって取り組んでいるようでございます。そういうような振興、産業振興をこれから具体的に短期、中期、長期の目標を見定めながら、視点を押さえながら、この1、2年でできること、3年から5年かかること、あるいは10年スパンで考えていかなくちゃいけないこと、そういう中でできることをより着実に、コツコツとやっていくのが大事になってくると考えます。その1つの長期的な展望の中、教育が非常に大事なのではないかと、したがって地域の若者から子ども、老人までひとつのイベントというものが、それが共通の思い出として残り、語り合えるような共通の昔の、いにしえといいたしましうか、そういうものを持つことは心のつながりをもつということで、固い絆で結ばれることによって、何年か後に、地域に帰ってくるだとか、地域の担い手になっていく可能性がある。ですから教育は非常に長い目で見ていかなくちゃならない。そういうことは大事だと思います。それから、もうひとつ地域協議会の中でもですね、今ある地域の事業、行事、それをどうするのか、今まで通りできるのか、キュリー祭、花湯まつりにしても昔でしたら地域こぞって参加していたのが縮小傾向にあり、若者もそれに与するというような元気がなくなっているのではないかと。これから5年後、10年後と果たして同じようなことができるんだろうか、こういう心配をされる方がいらっしゃいます。ですからこういうことを今までどおりにならんにしても、それに地域、三朝の魅力のひとつだと思いますので、ですからそういうものをですね、より具体的にスケジュールを組んで取り組んでいく姿勢が大事でないかなと思います。それからいろいろと飛びますけれども、この度ですね、例えばコロナの関係で学校が休校になりました。その関係で地域協議会の方に子どもさんがおいでいただいたのでありますが、地域協議会でしっかりと保育といいますか、面倒を見ないといけませんが、今日の新聞では琴浦町は学校の図書館を開放してそこに来ている生徒に地域の方が牛乳なり、そういうものをあげたという記事が出ていました。そ

	<p>これは、地域として「あ、すごいな」というアピール力が強いと思います。そういう何かひとつのイベントをどのような形でアピールしていくか、それを集客力に結び付けるかが非常に大事なことでないかなと思います。これはいち委員、住民でなく、行政と地域がみんなが連携を図りながらですね、盛り上げていく、三徳山の御幸行列もそうです。いろんなことが地域がひとりひとりが自覚して、参画して盛り上げていく、こういう大きな塊になればいいなという具合にこれを見ながら、なおかつ感想をふくめて申し上げました。以上でございます。</p>
西田委員	<p>新型コロナウイルスの発生したことによって、いろんなことが見えてきたような気がします。最小限大事なものは何をしようかということを変更して学校教育の中で感じたところでもあります。そのあたりも含めると、学校で将来に向けて付ける力、いろいろ必要だということはいわれますけれども、逆境にあってしまったときにつぶれてしまわない復元力というものを大きなテーマで教育していくことが必要だと思います。少々の失敗でくじけない。そういう強い心を持った子どもたちを将来につなげていく、そのためには先回も申し上げたわけですが、三朝で生活するという、その中で大人の姿を見せるということは改めて大切だろうというふうに思いまして、その尺度をどう測るかということが数値目標としてあがるわけですが、従来型の数値目標で人が何人増えたとかいうような尺度では測り切れないわけでして、新たな尺度というか、そういうのが必要だという印象をうけます。それからもうひとつは、グローバル経済といわれながら、地域の経済、ローカル経済がうまくいかないと、この過疎といわれる地域は太刀打ちできない。地域のなかでのローカル経済がまわりながら、それがグローバルといわれるようでは、そこに接点を求めて回していく、小さい回転と大きな回転と、その中間の接続といいたいまいしょうか、そういう交じりということが大切で、モノばかり見るよりか、コトに焦点をあてて考えていったらどうかという感想を持っています。</p>
山本委員	<p>先回、第1回ですが私欠席しておりまして大変申し訳ございませんでした。あの、この会初めて今日参加させていただいたところですが、今この資料で思うところでは、三朝町においては高齢化社会を迎えていくということ、人口が減少していくということ、いろいろなものごとをやっていくにあたって、それなりの人数というか人口が必要になってきます。数年前については人口が1万人いらっしやったのが、今は約6千人くらいと減少傾向にあるわけですが、それを食い止める、も</p>

	<p>しくは増加をさせていくと、いう必要もあると思っておりますがその中で、当然今に住んでいらっしゃる方が大人になられて住まわれるのもですが、それだけでは人口は減っていってしまうと思っておりますので、他の地域から来ていただくことにも取り組んでいかなければいけないかと思っております。そうなる具体的な何をしていくのかということになりますけれども、やはりこの町がいかに魅力的なものであるのかが明確に出ていくことがあろうかと思っております。他の地域におかれましてはそういったセクションを置かれ、ホームページを開いたりだとか県外の方だとかがそれを見られて、ここはいいところだと、見てこられたりだとかいうことがありますけれども、そういった目に見えるもの、ホームページであったり、実際に来られた時にそういった部署、セクションが見えてあるだとか、いうことも一つの施策であるかなと思っております。</p> <p>あとは、実際に子どもさんが大人になって大学などに行かれて県外に出られたりすると、その後こっちに帰ってくる方がなかなか少ない部分があると思っておりますが、そこをいかに戻ってきていただけるか。当然地元の企業なり誘致とかいろいろあると思っておりますけれども、県外から三朝に住んでいただけるようなある程度制度的なものであるとか、補助的なものであるとか、空き家があると思っておりますが、そういったものの無償提供だとか、いろんなところでの受け皿を検討していくことが必要な部分でないかなと思っておりますが、私がこの資料を読みまして思ったのはそういったことでございます。</p>
竹本委員	<p>先回も言わせていただいたのですが、やはり三朝の魅力というのは倉吉市から概ね15分程度で、非常に環境的には住みやすいことがあると思っております。やはり人口減少はどうしても国の動きもあります。ただ、やはりそのままだんどん自然減になっていくという形ではどうにもならないので。一番欲しいというか、一番住んでほしいのが、移住定住とか地方創生のことで出ていますけれども県外、都会、首都圏からやってくる、こういうことは本当に限られているんですね。ではなくて、やはり、倉吉市内に実家があって、結婚されて例えば家を建てられるという際に、三朝の交通の利便性とかよくわかってらっしゃると思うので、若い世代が外から来ることをどんどん整備していく必要があるんじゃないかなと。全国的に見て若い人口が増えているところというのは子育て支援と教育、ここに本当に力を入れていらっしゃる自治体というのが非常に増えている。交通の利便性があまりよくななくても、そういうところが充実しているところに増えているという結果が全国的に出ているようでござい</p>

	<p>ます。それで、三朝町は小学校の3校を1校にされてコンパクトにされてということもあるんですけども、そんなにマンモス校で非常に生徒数が多いわけではないので、先生が子どもに対してかける時間といえますかね、そういったコミュニケーションをとる時間が多いと思うので、子育て教育の面を強みとして、自然も環境的にいいので体力的にも非常に落ちている子どもも多いので、これだけの環境の中であればいろいろなことが生かせていけるのではないのかなと思います。この間も新聞を見ましたらドッジボールで世界へ行かれた子のこともありますので、そういう子どもがどんどん増えていくというか、子育て世帯が安心して住んで、山本委員さんが言われましたがそこからお勤めに出られるのは交通の便的には利便性も悪くないし、働くのは倉吉市、住むのは三朝町でも十分対応できると思うので、そういった魅力をどんどん発信していけばかなり若者層、若年層は魅力を感じられるのではないのでしょうか。実際に我々金融界なので、住宅ローンなんかでも郊外の方に家を新築で建てられたりだとか、市内ではないから広い駐車場が安くつくれて、といった感覚の夫婦も多いです。そういうところをターゲットにしっかりと絞られて発信していけば、三朝の魅力というのは十分伝わると、私としては思います。以上でございます。</p>
<p>太田委員</p>	<p>分野別将来像に支え合いでつながるまちというところがあるんですけども、今これだけ少子高齢化になってきておりまして、やはり温泉街の奥になりますと、なかなか人口減といわれるようなものが以前と比べると激しい。そうなりますと、なら本当に高齢者ばかりで支え合いができるのかとか、いろいろ大きな問題が出て来ておると思います。三朝町全体でも高齢化というのがどんどん、まあ倉吉市、中部全体でも、日本国全体で広がっているんですけども、果たしてその支え合いが本当に少人数できるのかと、というのがいよいよ考えていかなければいけない問題だと思っております。三朝町も広いですよ、町土が。そのなかでやはりひとつ考えてみたいと思うのがコンパクトな町づくりといいますか、集約できるような、みんなが助け合えるような町づくりというものをひとつどうかなと。予算とかいろいろあるかもしれませんが、人口を増加させようと思うと何か特典がないと。湯梨浜町なんかでは子育てについて保育料無償化であるとか、施策をされました。それが功を奏し、今はだいぶ増えておると。まあ極端な話かもしれませんが、例えばですね、土地を買い上げて、定住者に半額なり、無償なりで提供するとか、極端な例ですが、インパクトのある施策をもってそれをもって三朝町も一緒に発信できたらと、そうすること</p>

	<p>で、三朝町の魅力が各方面でクローズアップされるのではないかなと思います。まずはやはり三朝町として目立つような、奇抜といいますか、そういうことを発信するのの一つの方法なのではないかなと思います。予算の関係とかいろいろな難しい点はあると思いますけれども、これだけ全国的にも県内においても、中部においても人口減に歯止めがかからない状況で、その中で三朝町をなんとかクローズアップするためには何か大きなひとつの柱といいますか、そういったものが必要なんじゃないかなと私は思います。</p>
<p>塩谷委員</p>	<p>第1回目欠席して申し訳ございませんでした。三朝郵便局局長の塩谷です、よろしく願いいたします。全体的な話ではあるんですけども、三朝町に魅力があればですね、いいのかなと、もっともっと。個人的な話をさせていただくと、大阪に生まれて東京に行って、こっちに来て20年ぐらいですが、その流れの中で三朝の良さというのをいっぱい感じているんですが、そのひとつで、高齢化社会といわれていますので、これは避けられないと思いますが、プライベートな話で恐縮ですが、うちの奥さんの両親が千葉から二人そろって三朝に住まわせていただいている。車椅子の生活をしていて介護の状態なんですけど、来させていただいた。それで、何が言いたいかといいますと、千葉に住んでいたのですが、例えばデイサービスに行くのに、千葉では何人か乗せて施設へ行くのに1時間くらいかかるというんですね。いろんな人を拾って行って1時間くらいかかってデイサービスに着く、そんな距離は遠くないのにですよ、それでその時間が苦痛だったと言うんですね。でもここに来ると、10分くらいで、何人かは連れて行くんですけどもいけると。ひとつをとってみると、高齢者の方は住みやすいのではないのだろうか、そういうところをアピールする材料になるのではないかなと、逆手にとってですね、高齢化社会で大変だということを逆手にとって、ひとつ知恵を出し合えば高齢者が増えるということもいいことありますし。先ほど子どもがUターンで帰ってこられないという話がありました。私も子どもが東京の大学に出ておまして、鳥取に、三朝に帰ってきてもらいたいなと思うんですが。なかなか難しいこともあるんですけども、運よく私の子どもは農業を勉強しておまして、三朝町は農業でも有名な町でありますから、そういうところでもですね、なんとか農業を活かして子どもたちを呼ぶ、県外から呼び込むのも、ここにいる子どもが戻ってこれるいろんな場面も作れるのではないかと、もっと言えば農業を勉強している子どもたちを県外から呼び寄せることもできるのではないかと、考えようと思ったら考えれると思っ</p>

	<p>ています。そのひとつのポイントとなったのが、その大学は子どもが大分県に研修にいったんですが、大分県の市だったか町だったか忘れましたが、そこと契約してその農家に研修に行って、そこで勉強してまた大学に戻って学ぶのですが、そこが良かったなと話をしています。うまい具合にいけばそこに定住したというチャンスにもなるでしょうし、三朝の良さというものもそこからアピールができるのではないかなと思います。もうひとつ観光面でも先ほど言われていました三徳山、温泉というのは三朝町を全国的にアピールできるものなんですけれども、大阪、東京を経験した私からすると本当に自然が美しいなど。夜は本当に星がきれいに見えますし、夏になればカジカガエルが鳴いたり、ホタルが飛んだりするような自然を生かすことができないかと思いません。具体的に言えば、中津なんかはどんどん人が減っていますけれども、場所的には非常に良い場所なのでありますから、あそこの整備をすれば観光の起点になるのでないかなと思ったりしますので、もっとももっといろいろな視点から見ればですね、魅力があるんだろうと思います。</p>
<p>長江委員</p>	<p>長江でございます。先回の一回目のときからいろいろとどうやったら活性化することを含めて継続して考えさせていただいているんですけども、その中でも印象的であったのは松浦町長が上手に縮むということをおっしゃられたと思います。日本全体が人口減少と高齢化していく中で、人口増はなかなかチャレンジすべき目標ではありますが、現実的には難しいと。どうやって、人口が減少していく中で、担い手が減っていく中をどうやって補っていくのかということは、地域が持続的にですね、維持発展していくということを考えると大事な視点だなと、お伺いしながら思っておりました。まず一点目がどういう風に人口が減っていく、高齢化が進んでいく中、この町全体の維持発展の基礎となる教育、住民生活のインフラになる防災とか、地域の交通とか、高齢化が進む中の健康寿命を延ばすのかということも重要な視点と思いますが、いろんな種類の課題を担い手が少なくなっていく中でどう維持するのか、これが大事な視点なのかなと考えています。今ですね、ICTの技術も発達していて、費用の部分は置いておいて、思い描くことってだいたい実現可能なものまで到達しています。細切れではありますが、いろんな健康の見守りをどうするのか、地域交通をどう解決するか、教育にどのようにICTを活用して、先生の時間をうまく捻出してより充実した教育に振り向けるか、いろんな市町村がチャレンジされているところですので、こういったうまく状況に対応した課題解決の主題と</p>

	<p>いうところを最近では手段ができてきていると思います。それをどう活用していくかというのが大事な視点としてあるのかなと思っています。1回目の時に申し上げましたけれども、これから人口が減っていきただけじゃないかという話も出てくると思いますので、にぎわいを創出していくため、この三朝の重要な観光資源、温泉、三徳山とかそういったところをどういった層にPRして、どういった層に来ていただいて、町としての活気とかにぎわいをどう創出するか、しっかりと考えて実行する必要があると思っています。冒頭申し上げましたように、日本全体が高齢化していますので、若い人が来てくれるのが一番にぎやかになるとは思います。一番のボリュームゾーンというのは今でいう高齢者の方のところが多いわけですね。健康で元気なアクティブシニアというのも相当数いらっしゃると思いますので、そういった層に対してうまく三朝温泉の健康というか、健康づくりをキーワードに長期滞在していただけるような取り組みですね、現代湯治という考えが近いかもしれないが、そういった考え方を少し進めていって、長期滞在または定期的に来ていただける仕組みづくりが町の活気、にぎわい創出につながると思っています。以上です。</p>
山名委員	<p>資料を拝見させていただいて、各分野にまとめられているなと思います。一方で、こういうたくさん項目があるということは、いろいろ課題があるということだと思います。少子高齢化、いろいろな取り組みがあるのですが、それらをなんとというか、継続して行って、成果をあげるころまでつなげて考えないと難しいと思いました。そういった中で、いろいろと基本事業と定められていますので、第一歩ということから進み始めていくと思いますが、どういう風に広がりをつなげていくのが大切なのではないかなと考えました。そのためには、多くの人に取り組みを知ってもらうことが必要だと思います。例えば、住民さんが自らそこに参加したいというきっかけになったり、そういったようなものを創っていくことが必要だと思います。実は、三朝町さんと倉吉市さんとケーブルテレビで中部のチャンネル、番組ができないかなという話をさせていただいています。行政さんが発信される情報はなんとというか、住民さんに対して弱みを見せずらかったりとか、そういうこともあるのではないかなと思っています。ケーブルテレビも一緒に作りますので、今まで行政さんが出しづらかったけれども、ぜひ出したいということについて、うまく活用してほしいと思っています。ケーブルに限らず、今はSNSもありますし、テレビもありますので、うまく使って行って住民さんと情報を共有して、住民さんがこれから参加</p>

	<p>していく取り組みになるという流れが必要ではないかなと思います。</p>
前田委員	<p>分野別将来像の4、豊かな資源を活かした町の関係として、総論でなく、具体論として提起したいのですけれども、今月末ですか、温泉街で熱気浴施設が完成するわけですけれども、地域の大きな資源はやはり温泉であると思います。現在は温泉資源を活用した熱気浴に代表されるように、健康、医療面での活用はあるわけですけれども、産業に活用されていないということがあると思います。例えば、温泉熱、温泉水を活用した産業おこし、これが今後の大きな三朝温泉の資源を活かすには大切なキーワードになると思います。なかなか産業化というのは難しいと思いますけれども、最近は流行のイチゴ団地を作れば、雇用の創出にもなりますし、観光資源として交流人口の拡大につながる、いろんな分野で波及効果があると思いますので、ぜひとも温泉熱を活用した産業化というのを総合戦略に入れ込んでいただきたいなと思います。それと、あの産業振興の部分に関わるのですが、町内の商工業者、旅館、一番各業者の課題は継続だだと思います。今は後継者がいなくて廃業されたり、そういうケースがあるようです。総合戦略の一番の目的としては人口減少の阻止ですが、いかにして廃業をなくすかもカギを握ると思います。こういう商工業者への廃業できないような支援策をひとつ考えていただきたいと思います。</p>
小川委員	<p>自分の方からは総合戦略について、全てに目を通してきたわけではありませんが、これはこれでいいと思います。地方創生という言葉が生まれてから数年が経過して、その間に国はもとより考え方も変わってきている実態もあると思います。自分は行政的なことは承知しておりますが、今この戦略に含まれたものの、もう少し個別具体的な行動指針というものを、具体策というものが示されておりますが、分野ごとに今日お集まりの方も三朝町に関わりがある方ばかりの中で、行動指針を考えていって、関りをもっと持っていただくことを早くにする必要があるのではないかと。我々の立場、森林林業木材の面から言いますと、2015年からのSDGsについては15個くらい関りがあるわけですけれども、そのうちで貴町にできること、そういうことが分野ごとに行動指針を作っていただく中で、御意見を伺ったりとか、協力することができることが目に見えてきます。例えば、先程いわれました教育についても我々としては木育、木育というのは地域を思う心、人を思う心、これが我々の立場で思うものですが、木育と、野育と、今JAの組合長さんと第一次産業の中で、子どもたちに教育することが大事なのではないかと、早いうちに具体的な施策のなかの個別、具体的な行動指針について</p>

	<p>て、こういう場で協議していただいて、できること、できないことを分別して次に進むと。地域にあった、三朝にあった、必要なことだと。多分、日本全国でこの地方創生については、この半分は同じようなことをやっておられると思っております。それはそれでよしとしてですけども、やはり三朝町民の数を減らさない、何か観光的なことから地域にお金を落としていただくとか、できることから指針をもって次に進むということをやっていたら、我々もSDGs 15項目関わっておりますので、最大限協力したり、一緒にやることが、我々の業界にもつながってきますので、昔の学者の方が、山川は国のもとなりとおっしゃった方もいましたが、それが基本だと思っています。最大限、森林面積が多い貴町にあたって、観光とともに、最大限できることは協力していきたいなと思っております。以上です。</p>
山本委員	<p>三朝町の農業員会で会長をしております山本です、先回は欠席をしておりました。皆さんのお話といただいている資料を眺めると、今日も午前中この場で農業委員会の会議をやりました。日々農地がなくなる、ようするに農家の人がどんどん減っています。農地は減らない、結果として何が残るかというだけの話ですが、そこに委員会組織では到底無理な話なんですけれども、三朝の場合は山を通り抜けて、農地の間を通り抜けて、観光地にやって来るわけですね。よく言われますが、「こんなところに観光客が来るようになるのか」と。それから観光と農業と絶対にあわないと言われますが、全くそれは違うと。まして農家の方、観光地も含めてですが、自分たちのふるさとを守るという部分から始まらないと、何もできないんじゃないかなと思います。一番困っているのは、あくまでも農家の方が辞めるに辞められないところに、どう手を差し伸べるか。それから若い世代が少しずつ入ってきたのは、県外の若い子が多い。大学時代に三朝で遊んでいて、まあ僕たちも一緒になって遊んだんですけども、ここがいいということでこっちに来て、まあ役場に入った子もいますし、奥の方に入ったりとかもあるんですけども。やはりここに住みたいと思ってくれる時には、それなりのサジェスションというか、協力者というか、仲間がいてはじめてここに住みたいと思うのであって、何も無いところからここに来て、ここに住みたいということはないという感じがしています。そのあたりからの雰囲気づくりをしていかないといけないというのが大前提でして。で、一つお願いしたいのは、農家も含めてそういう相談事をできるセンター的なものがぜひ必要だと。今、農業は農業、水産は水産と、観光は観光と昔から言われますが、改善されていないというのもあって。そこを一元的に</p>

	<p>見れる、本当は行政がそこをするっていうんですけども、今の行政のレベルでは人間的にも無理な面はありますので、住民からそういうところに入れてでも守っていかうと、相談的なことができるセンター的なものが必要だと、個人に任せていても無理だと思うので、そのへんをぜひ行政も一緒になって、当然自分たちが主役だと思ってやらなくちゃいけないのですが、行政にもお願いしたいと、意見として言わせていただきます。</p>
<p>岩崎委員</p>	<p>今日は前回欠席された以外と多いのでちょっと安心をしました。私も今回から出させていただきます。人口のことをおっしゃられた方が何人もいらっしゃいますので、本当に切実だなと思っております。行政サービスもですし、我々商売人もですし、拡大再生産を前提とする経営学だったり経済学だったりするわけですけども、人口が減る、しかも高齢化するというので、どうやってこの現状をみますと企業、商売が成り立つか行政が成り立つか、すごく大切な時代になってきたのかなという風に思います。2060年には日本の人口は3割減り、7割くらいになるといわれています。しかも高齢化ですから、経済力、消費の数値化だとかが50%くらいになるのかなと思っております。企業も競争しますので、5割くらいはつぶれていくのかなと思ってます。いかにして、お客様が減っても、マーケットが縮小してもやっていけるかという方法を見出さないといけないのかなと思ってます。これは、行政サービスも同じことだと思ってます。この計画書は大変きれいにまとめあげていただいておりますけれども、この中にどれだけ具体的なことを入れていけるのかなと思ってますので、私も自分のところの商売のヒントが何かあるのかなと思って期待もしている次第でございます。以上です。</p>
<p>足立委員</p>	<p>資料全体は本当によくできているなと思います。これ、一体この中の部署で誰がどれくらいやっていくのかなというのが素朴な疑問です。会社を経営していて、目標は必ずたてますし、計画はけっこうよく作るんですが、最後に目標に到達できるのか、その過程ですよね、常にトライ&エラーだと思います。トライしてエラーになりながら、さらにトライをして、目標値に、ということだと思いますので、そういうことがもう少し具体的にあればいいと思います。数値化できる目標は数値化しながら目標値に達成できるように、部局の方をお願いするのがいいのかなと思います。人口減の話はたしかにあります、減っていくのはあると思いますが、ただそれをずっと言っても必ず最後は0人になるのかということですから、どこの年齢で分けるかはわかりませんが、数値目</p>

	<p>標として必ずこの年度には反転させるんだと。たとえ、出生数が30人になる、20人になるかもしれないが、この年度に20人になったら必ず反転させると、これを目標にしないといつまでたっても落ちていくだけかなという思いはあります。私の意見は以上です。</p>
<p>松浦町長</p>	<p>ありがとうございました。全体的にお話を伺いまして、ある程度人口だとか、教育、産業振興とか御意見頂戴しました。なかには具体の方策についても言っていただいた方もあります。もともと地方創生の計画の時には私も計画書のみで思ったのは全部を網羅していて、これを5年間でせよ、というのは無理な話であって、今回もそうなんですけれどもひとつには地方創生の交付金の対象とするという一番大きな目的があって、そのためにはある程度エリアを広くしておかないといけなくて、逆に今度はその具体的なものでないといけないとかあります。皆さんいわれましたが、5年間で仕上げることは数が限られてきますので、計画は計画として作って、そのなかで絞っていく、事業としては。あくまで全体的なことですね、高齢者と健康と結び付けたり、教育と結び付けたり、産業とだったり、そういったことを制作としてやるのが大事なかなと思っております。そういうやり方をしていきたいと思えます。計画ができる前にもすでに予算のなかで健康な高齢者とか、ICTの活用とか、温泉を基軸にした町づくりとか、そういった部分については新年度の予算でも位置付けをしてスタートできるようにしておりますので、そういった面で御意見を頂戴できたらと思っております。二番に項目が3つ、情報発信、教育、産業振興についてであります。先程に御意見を頂戴した中にありました。改めてその3つについて、具体的な方策についてこういうことをしてはどうかと、提案いただければありがたいと思えます。今は議会中ですが、一般質問で「三朝町にとって何が大事か」と聞かれまして、「町の発信力だ」と答えたのですが、そこから先の具体的なものについて、いろいろ考えるところもあります。それぞれの人と関わることによって発信していただくことも発信力ですし、集中してどっと出すのも発信力ですし、難しいとも思ったりもしますが、そういったような町の情報発信の仕方、産業等について、ご提案、御意見を頂戴できたらありがたいと思うわけです。前田委員、何かございませんでしょうか。</p>

前田委員	町長、この前の定例会の一般質問に答えられまして、おっしゃられたことが頭に残っておりまして、ここにメモをしております。町長はこうおっしゃいました。常日頃からも魅力的な町づくりが人口減対策につながると。町民自らが町の良さを実感していくことを前提にして、今は町外からの方が魅力をストレートに表現していくと、その中で何が必要か、発信力の強化が必要だということをおっしゃいました。それで、一番印象に残っている言葉が町の元気を発信していくということをおっしゃいまして、それには何が大事なのか、おせっかいが必要なんだと。この言葉が非常に印象に残っておりまして、町づくりと人づくりがセットになった考えなのではないかなというふうに思います。先がた、ある委員さんから相談センターを設けてはという提起がありましたけれども、町外から来られる方に、とにかく町に対する印象を良くしてもらおうということが大事だと思います。それには町長おっしゃいました町民のおせっかいが大事なんだと、どんどん町民、町に対しての印象を良くしてもらい取り組みが必要なのではないかなと思います。そのことによって第三者が「三朝町はいい町だよ」という発信をしていたら、こんな町なんだということで発信になるのではないかなと思います。
松浦町長	そのほか、御意見ありますか。
大坂委員	先ほど、ある委員さんからありましたが、車イスの方がデイサービスに行くのに1時間かかる、町だとすぐそこにある、場所がですね。そのことは言えると思いますね。それから高齢者に優しい、子どもにも優しい、さきほど湯梨浜町のこともありましたけれども、私の娘は名古屋からお産のために帰省しておりまして、2歳の子が上にいるものですから預けたいと。このため、週3日間三朝こども園に預かってもらっているんです。すると、広くてきれいで環境がよいと。名古屋の方でするには金がかかるし、場所が遠いんですね。ということになれば、子育てに優しい、高齢者に優しい、人に優しい。そういうキャッチフレーズで温泉もお客さんに優しい、そういった町づくりをされてはどうかと、話を聞きながら思います。産業のことについては、特に山の木がなんでこんなに安くなっているのかよくわかりませんが、なぜでしょうか。例えば、神社の境内の樺の300年の木が聞きますとだいたい100万ですと。昔であったら大きな樺の木だったら拝殿が建つんですね、なんでこうなっちゃったのかなと思うわけですが。
小川委員	それは、需給バランスですね。基本的には戦後の需給バランスなんですけど、植樹をするということがなかったんですね、日本には。戦後の木材

	<p>の需要ということもあって、ようやく植林をするようになってきたわけでした。外材のこともあり、需給バランスが完全に崩れてきてね、我々の島国の林業の生産コストも問題もどうしてもありますのでね、海に近いところであればすぐに海に出してタンカーに積んでいけるんですね。いろんな要因があるんですが、基本的には需給バランスがもととなって、どうしても外材に比べて国産材が安定供給できないと。ようやく21世紀になって、戦後に植えたものが世に出るようになった時、環境がガラッと変わってしまっていたんだということです。ピークは昭和55年ごろでしょうか、おっしゃったように、樫が1、2千万円の時代でした。なんとか立て直すために、今は我々の林業じゃなしに、先回も言いましたが、森林の空間を利用した、森林サービスを利用したことを新たな業として、地域の森林を保全するという新たな構成が出てきましたので。新しい施策をとということで、従前から森を活用してですね、温泉とコラボしたものを、何か町と取り組みできないかなと思っております。特用林産を観光客にしてもらって、温泉に入ってもらって、一気通貫で招致できないかなと思ったりしています。2、3年前に青木振興監とでしたけど、森林利活用して温泉とコラボしたことも話したけど。例えば、障がい者ですとか高齢者とか普段は森に入れない方について、智頭町の森の幼稚園ではないですけども、そういった人たちが山に入って病気の方であつたら治癒の場ではなく、進行させない森林という立場で、何か貢献をしたり、そして治癒の場として温泉に入っていて、三朝にはこういう一気通貫の場があるんだと。また来年に森に入ってから、温泉に入りやすいところとか、三朝のいいところが少しずつわかってきて、定住してみようかと、そうなるわけです。そういう一つの全国的に発信できるような取り組みをしていただければ、我々も協力してですね、やっていきたいと思っておりますので、その森林と温泉についてコラボしたようなことを提案させていただきますけれども、前向きに検討していただければありがたいなと思います。そこで、山本委員が言われた農地を守る取り組みになるといいかなと思っております。</p>
<p>松浦町長</p>	<p>町の方では一次産業があるのですが、一つの起業、少人数でも個人でもそういうところを伸ばしていきたいと思って、大瀬の寺のところにイチゴハウスを作っておられる方もありますし、商業関係でいくと新しいことが大事とか、そういうところに力を入れていきたいなと思っておるわけですけども、そういう面で金融関係の皆さん、NTTの長江委員、提案いただければありがたいなと思っておりますが、いかがでしょう</p>

	<p>か。来年度から、町のケーブルテレビを全戸光化ケーブルに張替えをするということで、それまで若い世代のICTだったものが、年をとり、全ての年齢層でICTを活用できるのではないかなど。そういったことも将来的に考えていくべきかなと思っているのですが、なかなかまだいいアイデアが出尽くしていないところもあって、そのあたりも御意見を頂戴できればありがたいなと思いますが、いかがでしょう。</p>
<p>長江委員</p>	<p>先程、温泉の資源というか、活用して単に観光だけでなく産業に活用できないかということで話があって、そのとおりでなと思っておりました。その時に考えたのは小学校の跡地ありますよね、実はNTTのグループ会社でも会社の空き局舎を活用してイチゴだとか、野菜だとか、それをICTで管理してですね、作っていくというような事業をやっていたりしてしまってますね、温泉の熱、成分やパワーにつかった農作物も資源として利活用はあるんじゃないかなと思っています。イチゴのことを言われまして、まさにイチゴは温かいところでできるものでして、温泉の熱を使ったハウス栽培とか、管理された環境での栽培にも適しているというところもあると思います。イチゴを先ほど調べてみますと、私が思っているのは、三朝温泉自体はもうちょっといい言葉が見つければと思うのですが、健康につながるというのがあるんだろうなと思います。話しましたが、健康ということにあるのは、アクティブシニアにとって気になる場所であって、ただ人間ドックは受けづらいところもあるようでして、そのあたりをうまく拾い上げて、基本的なりフレッシュも含めてですね、温泉にきて健康になっていただくというか、湯治というところどこか悪い人が直しに来るイメージなので、なかなか町を出歩くというイメージはないですが、アクティブシニアであれば健康の維持、それからより健康にということで行くと、来られた際には町を出歩いて、町も活気づくのかなど。そういう人たちをなんとか取り込んで、地域とのつながりを作って、何度も訪れていただくような関係性を、外から三朝町を応援していただくような、そういう存在、関係性を作れたらいいなと思っています。健康との組み合わせでイチゴというものを温泉と一緒に抗酸化作用があるようで、あとは三朝には神倉大豆もイソフラボンもあり、アンチエイジング効果もあるというところで、そういうひとつのブランドみたいなものをうまく作りあげることによって、エッジがたった取り組みができれば発信力というものも自ずと高まってくると、発信力というものを高めるには手段よりも地域の魅力をどういう風に組み立てしてですね、それを言葉としてもっておくかということが非常に重要になるのかなと思っています。</p>

	ます。まとまりがない発言で申し訳ないですが、以上です。
塩谷委員	一つよろしいでしょうか。インパクトって強ければ強いほど発信力になると思うんですね。山陰本線があるじゃないですか、単線でもいいからSL走らせたらどうかと思ったりして。田舎には田舎の良さってあると思うんです。ゆったりと時間が流れている場所や空間があればインパクトって強いと思うんです。すごく極端なことを言いますと、三朝町に入ってきた途端に自動車の制限速度が20Km制限とか、物理的にここはゆったり時間が流れている、お年寄りにも、子どもにも、観光客にも優しいんですよと、できるかどうかは別ですが、三朝町に入った途端に三朝ゾーンになって、ゆっくりして行ってね、ということをごもしていないので、全体ですれば放っておいても情報発信が、「ここすごいな」となってくると思います。インパクトが強い情報発信だと。どこもしていなく、あまり金もかからないように思います。そういうことも地方、田舎の良さもアピールできるように思います。
山名委員	長江委員、塩谷委員がおっしゃられた、キャッチーな部分というところはすごく重要だと思います。例えば、YouTubeですが、最近ユーチューバーの人たちたくさんいるんですが、あの人たちが視聴率を上げているためにサムネイルの画像にいかにも目を引く文面を出すかといことだと聞いたことがあります。まずは最初に目を引くことが重要で、そこから中にはいつかいったときに、どういうものかという時に、やはりわかりやすさも大事だと思います。
松浦町長	あまり気付いていないところがたくさんあって三朝温泉病院もあるんですが、県内では唯一、県外から患者さんが来られる病院なんですね。まあ岡大のこともあってなんですが、以前は三朝町に県外から来られるお客さんがよくあり、前にデータをとったことがあって、北海道から鹿児島まで大体同じようなパーセンテージでお客さんがこられているというのはすごいことなのかと思ったところです。今日はせっかく県の方から上野さんにオブザーバとして参加していただいていますので、一言いただければと思います。
上野オブザーバ	皆さんのお話を聞かせていただいて非常に感心させていただいております。人口が減っているということはあるのですが、全国的に減っていても、今は関係人口という考え方があります。観光客の方が何人、外人の方が何人来られたら何人か減ってもまかなえる、補えるとか、そういった考えもあります。三朝町の場合は観光という強いものを持っていらっしゃる。健康、温泉を売りにして発信していくことが他にない条件だと思います。強く出していくべきだと思います。先ほどおっしゃら

	<p>れた、ゆっくり時間が流れる町ですか、とても面白いと思います。ちょうど、いま本を読んでいまして、旅行の本なのですが、桃源郷を旅する本ですが非常に時間がゆっくり流れていて、多くの人を訪れていくんですね。そういうほかにならないような魅力をガッと押し出していくようなことが地域の魅力になると思います。他にありました住んでいる方が元気で、三朝町を外に発信していくものだと、中にいる人も楽しめるということもできれば逆に外から人から来ることになるとと思います。ICTの活用ですが、5Gがいよいよ始まることになります。県の方でもローカル5Gに関連する予算もつけますし、市町村においても動きがあるように聞いております。例えば、他に先駆けてそういう取り組みをすることで産業振興、雇用にもなるとと思います。以上です。</p>
松浦町長	<p>貴重な御意見ありがとうございます。それでは、時間にもなりましたし、他に言い忘れたことがございましたら、御発言をください。ないので、会の今後について、事務局よりお願いいたします。</p>
青木振興監	<p>どうも皆さんありがとうございます。毎度のことでございますが、今しか聞くことができない言葉が多くございまして、伺っております。共感するもの等々ございます。いわれましたように、実践につなげる、行動につなげることが大事だなと思っております。この会はこの計画についての進捗ですとかやってみますが、それ以外にもできたものをいろいろな角度からつづいてもらう、意見をもらうこともやらせていただければと思います。本年度の会は本日が最後で、冊子のイメージを配布しておりますが、今日の会の意見をまた整理させていただいて、成案としたいと思っております。引き続きよろしく願いいたします。常に当たり前ですが、本町の地方創生のこと等々ご関心持っていて、何かあれば電話一本でも構いませんのでお話をいただければ幸いです。次年度以降もお願いいたします。以上をもって会を閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。</p>

15:00 閉会